

小中一貫教育における総合的な学習の時間（中里タイム）の取り組み
～地域の中でくらすわたしたち～

日立市立中里中学校

1 はじめに

中里小学校との小中一貫教育を実施している本校では「ふるさと中里を愛し、夢や希望をもって未来を拓くなかさとっ子の育成～良い所を認め、夢に向かって頑張る子の『未来を生きる活力に』～」を目標に掲げ、日々の教育活動に取り組んでいる。これを踏まえて総合的な学習の時間及び生活科では、全学年における年間指導計画に中里地区の地域学習を取り入れ、地域の豊かな教育資源を効果的に取り入れた活動をしている。ここでは、中学校の第2学年「将来を考えた職場体験をしよう」、第3学年「地域に発信しよう」をテーマとした実践事例について紹介する。

2 指導計画

総合的な学習の時間（中里タイム）指導計画案（2019年度）

日立市立中里小・中学校

学年		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
小1・2年 (生活科)			・中里にある野菜や草花の栽培してみよう(例) ・地域の祭り(おみこしを体験しよう(例)) ・昔遊びを地域の名人に教えてもらおう(例) ・地域人材の活用(保護者や地域の人々との交流) ・見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶ等の体験の中で、知的好奇心を大切にする活動の工夫 ※生活科と総合的な学習の時間の関連を大切にする。											
			テーマ:「中里の歴史や特産物から地域を知ろう」											
小3・4年 (25時間)	A		テーマ:「中里の環境について考え、里川について調べよう」											
	B		テーマ:「中里の農業について考え、米作りに挑戦してみよう」											
小5・6年 (61時間)	A		テーマ:「中里の福祉について考え、自分たちができることから始めてみよう」											
	B		テーマ:「中里の福祉について考え、自分たちができることから始めてみよう」											
中1年 (15時間)	A		テーマ:「地域を知り、自分の世界を広げよう」											
	B		テーマ:「地域を知り、自分の世界を広げよう」											
中2年 (35時間)	A		テーマ:「将来を考えた職場体験をしよう」											
	B		テーマ:「将来を考えた職場体験をしよう」											
中3年 (35時間)	A		テーマ:「自分の進路を考えよう」											
	B		テーマ:「自分の進路を考えよう」											

3 実践事例1「地場産業であるりんごの摘果体験」

(1) 単元計画

月	主な活動内容
4月	・地場産業について考える。
5月	・りんごの摘果を体験する。(本時)
8月	・りんごの成長を確認する。
11月	・りんごの収穫を体験する。

(2) 実施日時

令和元年5月27日(月) 午前10時30分～12時15分

(3) 場所

武藤りんご園

(4) 講師

武藤 隆之先生 武藤りんご園運営

(5) 体験内容

- ①講師から摘果をするための手順について説明を受ける。
- ②小学生と中学生がペアになり摘果作業を行う。
- ③職場体験学習に向け、りんご園の運営や働くことについて、話を聴いたりインタビューをしたりする。

(6) 活動の様子



▲摘果する前のりんご



▲講師による摘果の説明



▲小学生と中学生による摘果体験



▲働くことについてのインタビュー

(7) 学習のまとめ〔ワークシートから〕

- ・小学生と協力して自然と触れ合いながら作業をすることができて良かった。
- ・1日に摘果を終わらせることのできる木の数が、たった2本であることを知って驚いた。草刈りや農薬の散布など苦勞が絶えないことを知り、働くことの大変さを知った。
- ・無事にりんごが実ったときのことを語る嬉しそうな表情からは、働くことへの喜びを感じることができた。
- ・中里の美味しいりんごを広めようとする試みを知った。自分達も良いアイディアを出して、中里の発展を目指したい。
- ・秋に予定されているりんごの収穫を楽しみにしている。りんごを食べた感想を武藤さんに伝えて喜んでもらいたい。

4 実践事例2「制作物販売を通じた地域のPR活動」

(1) 単元計画

月	主な活動内容
7月	・地域のPRするポイントを考える。
9月	・販売する商品を考える。
10月	・販売する商品を作成する。
11月	・制作物を販売し地域の良さをPRする。(本時)

(2) 実施日時実施日時

令和元年11月2日(土) 午前12時00分～13時00分

(3) 場所

中里中学校第3学年教室

(4) 体験内容

- ①制作物を会場に展示し、販売するための準備を整える。
- ②会場への訪問者とコミュニケーションを図り、制作物を販売する。
- ③価格の調整や展示方法の工夫をすることで、制作物の完売を目指す。

(5) 活動の様子



▲制作物販売ブース



▲地場産業であるりんごをモチーフとした商品



▲訪問者とのコミュニケーション

▲金額の集計及び商品の包装

(6) 学習のまとめ〔ワークシートから〕

- ・商品を手に取り購入しようか悩む姿を見て緊張した。制作時のエピソードを興味深そうに聞いてもらえて嬉しかった。
- ・空き缶や布などが、みんなの工夫と努力で素敵な商品になった。協力して作り、協力して販売できたことが嬉しい。
- ・どのようにすれば商品を手に取り、買ってもらえるかを考えて活動した。将来の仕事に役立つことだと感じた。
- ・地場産業であるりんごをPRすることができた。りんご印のついた商品に興味をもってもらえて良かった。
- ・中里の綺麗な風景が伝わるようにカレンダーを作った。レイアウトに苦労したので、完成したときの喜びが大きかった。
- ・商品を考えたり作ったりするのは大変だったが、たくさんの人と関わり、自分達の活動を知ってもらうことができた。
- ・9年間の地域学習を通し、地域についてじっくりと考えることができた。地域学習の9年目として、地域の良い所をPRすることができて良かった。

3年生 総合的な学習の時間 「地域へ発信」 バザー制作活動振り返り用紙		
3年()		
1 収益金について		
澄水祭バザー収益金(全体) 63,630円		
◆直売から3年生バザーの売り上げを調べよう!		
値 段	枚 数	合 計
350円	18	6,300
200円	21	4,200
150円	22	3,300
100円	1	100
合 計	62	13,900
2 収益金内訳		
総売上(13,900)円 - 材料費・他(2,700)円 = (11,200)円		

5 成果と課題

(1) 成果

互いの考えを共有し、整理・分析をすることで、課題解決に向けた生徒の主体的・協働的な学びとなった。気づきや発見、自分の考えなどをまとめ発表するといった活動の積み重ねが、探究的で深い学びへと繋がった。

(2) 課題

見通しをもって活動することや、課題に対して積極的に考えたり調べたりしようとする意識が低い生徒がいる。生徒一人一人が課題意識をもち、自ら学ぶ態度を育てることができるような指導方法の工夫や改善を行っていきたい。